

若手研究者渡航費助成金による EMBO World Practical Course 参加報告書

2008年9月19日

大阪大学蛋白質研究所、大阪大学大学院生命機能研究科博士（一貫）課程3年

海江田修至

2008年9月8-15日の間、中国北京で開催された EMBO World Practical Course: Structure determination of biological macromolecules by solution NMR に、「若手研究者渡航費助成金」の御支援を受けて参加致しました。未だ暑い日の続く北京ではありましたが、雲一つ無い日もあり、過ごし易く心地良い日々でした。

今回のコースには、中国、シンガポール、米国、インド、日本、台湾、デンマーク、スウェーデンから総勢25名の若手研究者が参加し、8日間、ほぼ毎日午前9時から午後10時、11時近くに及んで、23名の講師陣による講義と実習を受けました。初日には、自己紹介とポスターセッションの時間も設けられており、良い議論をすることができると共に貴重な助言を得られました。それに続く講義は、異種核・多次元 NMR の基礎、NMR データ処理、構造解析、構造の検証方法、相互作用解析、residual dipolar coupling と緩和、それらを利用したダイナミクスの解析、巨大分子への NMR の応用などについて行われ、NMR を用いた生体分子、特に蛋白質の研究に必要な事項を網羅する内容でした。更に、実習では、NMR 測定のためのパラメーターの決定方法、測定のセットアップ、様々なソフトを用いた解析方法を、参加者自身が NMR やコンピューターを実際に使って学ぶことが出来ました。講師の方々には非常に丁寧に御教授して頂き、また基礎的な事項から実践的なもの、実験のコツに至るまで様々な質問にも快く御回答下さり、大変学ぶ事柄の多い、密な時間を持つことが出来ました。

コース中の空き時間には、参加者、講師を問わず多くの人とコミュニケーションを取ることができ、よい経験となりました。中には英語での会話に躊躇する方もあったので、全員と会話をすることは出来ませんでした。参加者の多くは私と同世代の大学院生であり、国や文化は違っても、同じような将来への期待、また不安といったものを共有していることがわかり、人を容易に繋ぐことができる、という自然科学のまた一味違った魅力の一面も実感致しました。8日間一緒に過ごしたことで次第と仲間意識と友情も芽生え、素晴らしい研究仲間を得ることが出来たと思います。

EMBO World Practical Course は、欧州以外の地域における自然科学研究推進を目的として、EMBO の研究者養成プログラムの一環として行われているそうです。8日間もの間、実験施設をコース参加者に開放して下さった北京大学の Changwen Jin 教授を始めとした主催者の方々、そして時間と労力を惜しまずに準備と指導をして下さった講師の方々の姿勢に深く感銘を受けました。多くの方々の御尽力に改めて敬意を表します。

最後になりましたが、この度「若手研究者渡航費助成金」により御援助頂いたことを、日本核磁気共鳴学会阿久津秀雄会長を始め、学会関係者の方々に深く感謝致します。今回の EMBO World Practical Course で得た貴重な経験を今後の研究生活に活かしていく所存です。